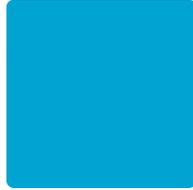




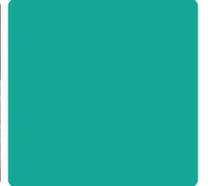
事前学習、体験プログラム、事後学習
3つのステップで
実効性の高い内容



新学習指導要領に対応した、
主体的・対話的で
深い学びの視点を包括



SDGsに関わる当事者や
目標達成に貢献している
人や組織を訪問



新潟市で 学ぼうSDGs!

〈新潟市教育旅行〉

～ SDGs の目標達成に寄与する体験型プログラム～

1日・半日プラン



新潟市で 学びの体験と思い出づくり。

新潟市は「都市部と田園地域との調和」を最大の特色としています。そして都心部の企業群と、田園地域の「農」や「食」とのコラボレーションといった、新たな価値の創造も進んでいます。まさにSDGsの体験型教育プログラムを実施するのにふさわしい場である新潟市で、たくさんの学びと思い出を持ち帰っていただければ幸いです。

CONTENTS

新潟市でSDGs 5つの学び。

教育プログラム

- ① 花街文化とはなにか ……6
～文化を残し守るために～
- ② 新潟市と踊りの関係性 ……8
～民俗芸能の継承～
- ③ 水と共に暮らす ……10
～恵みと災害のはざままで～
- ④ 田園型都市の交通 ……12
～持続可能な交通を目指して～
- ⑤ 農村の食文化と日本の味 ……14
～食を支える加工技術～

持続可能な未来の交通について新潟市をケーススタディに考察。

花街文化と古町芸妓の芸と心意気を学び、衣装をつけての疑似体験!

若者たちの情熱が多くの人を動かし、踊りの祭典を創設!

潟や浜で体験して学ぶ、「水」との共生と豊かな環境づくり。

米どころ新潟の食文化とその歴史的背景を、豪農屋敷で体験!



持続可能な開発目標
SDGsの達成のために
新潟市は学びに
最適なフィールド。

新潟市は陸海空の交通網が発達した本州の日本海側唯一の政令指定都市であるのと同時に、日本一の水田面積を有する田園都市でもあります。歴史や文化、豊かな自然環境にも恵まれ、経済、環境、社会の諸課題を包括的に扱うSDGsについて学ぶのに最適なフィールドです。



新潟市での体験プログラム

社会的な課題の当事者との
交流を主軸としています

社会的な課題の当事者や歴史文化の継承者との交流を軸に、「総合的な探究の時間」の前段階としてのご活用、SDGs教育に不可欠な現場の声を聞く場としてのご活用などを想定しています。

- 現地での情報収集と体験
- 主体的・対話的な学び
- 現地でのまとめ・分析・表現

体験の旅で成長し、 持続可能な社会の 担い手に

感受性豊かな生徒たちは、宿泊研修で新潟市が抱えるSDGsの課題についてはもちろん、自分たちの地域と異なる暮らしや異なる風景、異なる言葉など様々な出会いを通して多くのことを学び、成長することでしょう。その成長が次のアクションにつながり、将来、持続可能な社会の担い手になってくれることを願っています。

新潟市でSDGs 5つの学び。

5つのSDGs体験プログラムは、「どこの誰かの、顔の見えない社会課題」ではなく、新潟市に存在する社会課題の当事者や課題解決に取り組んでいる人に着目することで自分に地続きの課題として認識し、解決に向けたアクションの根源となる「原体験」を提供します。本プログラムを通じて、参加者に「社会課題の解決者」としての一步を踏み出してほしい、そんな想いを込めて開発しました。



03

水と共に暮らす
～恵みと災害のはざま～
豊かな水辺を次世代と一緒に
つくるために
行われている
様々な取り組み



「水の都」新潟市の人々は昔から湯や浜、川がもたらす豊かな恵みを楽しむとともに、水との共生のための開発に成功しました。しかし開発が進むにつれ、新たな環境問題や災害が注目される

ようになりました。そこで、よい環境を取り戻し未来につなげる活動をしているNPOから話を聞き、漏歩きや漁、カヌーなどで湯や浜の魅力を感じ、環境保全への理解を深めます。



プログラム >>>> P.10

01

花街文化とはなにか
～文化を残すために～
新潟市民が
失いたくなかった
伝統ある花街文化を
後世に伝える取り組み



新潟市の古町通・古町商店街は、200年の伝統を誇る花街文化が今も息づく地域。その担い手である芸妓の後継者が途絶えかけたとき、新潟市の企業数十社が出資し、諸芸や作法を身につけた芸妓の育成や派遣を行う株式会社が発立さ

れました。コロナ禍での「お座敷」の激減を支えたのも地元企業です。市民が大切にしている花街文化とはなんなのか、体験を通して探求します。



プログラム >>>> P.6

歴史と文化

04

田園型都市の交通
～持続可能な交通を目指して～
新潟市の交通の現状から
課題を発見し
未来まで持続可能な
交通について考える



古くから交通の要衝だった新潟市。現在も鉄道や幹線道路、フェリー、空港など、発達した交通網をもっています。一方、路線バスの維持が難しい地域があったり、道路利用が多く脱炭

素化が困難だったり、様々な課題を抱えています。本プログラムでは、新潟市の交通を支える人たちへのインタビューを通し、持続可能な交通とはなにかを探求します。



プログラム >>>> P.12

交通

02

新潟市と踊りの関係性
～民俗芸能の継承～
10～20代の若者たちが
踊りで町おこしを企画し、
伝統の踊りも蘇らせた
地方創生の物語を知る



新潟市で毎年開催されている全国でも最大規模のダンスフェスティバル「にいがた総おどり」は、10～20代の若者たちが「新潟市にも市民参加の感動がある祭りを作ろう」と始めたものです。

彼らは忘れられていた新潟市の伝統的な踊りをも掘り起こしました。彼らの活動や新潟市民芸術文化会館でのダンス・ワークショップを通して、地方創生の精神や手法を探求します。



プログラム >>>> P.8

地方創生

食文化

05

農村の食文化と日本の味
～食を支える加工技術～
米を中心とした
新潟市の豊かな食文化を知り
それを牽引してきた
豪農の文化を体験



新潟市の豪農屋敷と文化を伝える北方文化博物館を拠点に、農村の食文化や保存・加工の技術、さらには日本一の米どころを支えた「豪農」の地域社会での役割やリーダーシップについて学

びます。「日本の家庭が大切にしてきた食文化とはなんだったのか」を探求し、その集大成として新潟市の食材を使って地産弁当の開発を行います。



プログラム >>>> P.14





#芸妓文化 #歴史・文化 #職業 #舞踊

花街文化とはなにか

～文化を残し守るために～

受け入れ可能人数 最小 7人 最大 15人

※時期によって変動します。詳しくはお問い合わせください。

200年の伝統を継承する花街 新潟市古町で学び体験する 芸妓の文化と心意気

新潟市古町は、京都祇園や東京新橋と並び称された花街。200年の伝統を誇る古町芸妓はみなとまち・新潟を代表する文化の一つで、現在も継続的に若手芸妓の輩出に取り組んでいます。一方で、娯楽の多様化やコロナ禍における「お座敷」の激減、ジェンダー教育による価値観の変容などから、花街文化の継承が危ぶまれています。本プログラムでは現役古町芸妓から直に作法や踊り、芸事などを学び、対話をするなかで、花街文化について深く学び伝統文化の継承について考えます。



古町では見習いを「振袖さん」、芸妓を「留袖さん」と呼び、衣装も髪型も異なる。



古町芸妓が伝えるのは「芸」と「粋」と、「もてなしの心」。日本舞踊の流派・市山流の舞踊をはじめ、稽古で身につけた確かな芸は、お座敷だけでなく様々なイベントで披露され、活躍の場を広げている。



1/ 事前学習

日本における花街の文化と歴史を調べる

日本における花街の歴史と文化や、どういった地域に発展したのか、また、なぜ衰退したところと現在も残っているところがあるのかなどを事前に調べしておく、花街文化への興味を深め、現地での座学やフィールドワークをより主体的にとらえることができます。



2/ 体験プログラム

伝統文化の継承としての「芸妓」を体感する

古町に花街文化が育った歴史的背景を学び、芸妓をはじめとする新潟市の花街文化を担う人々の想いを知り、日本舞踊やお座敷遊びを通して、地域の伝統文化の継承について学びを深めます。



3/ 事後学習

伝統文化の価値とジェンダーについて考える

現地での体験プログラムをまとめて個人やグループで発表する機会をもつ、自分たちの地域に残っている伝統文化について調べる、また、芸妓のように女性だけが就くことができる仕事を調べ、それが本当に女性でなければいけないのかジェンダーの観点から議論するなど、次のアクションにつなげてみましょう。

プログラムの詳細とワークシートは、こちらよりダウンロードできます。

<https://www.city.niigata.lg.jp/kanko/kanko/newnormaltourism/index.html>



事前学習、事後学習は必要に応じて実施してください。

●プログラムを通しての到達目標 (SDGs)



●個別の体験に紐づく到達目標 (SDGs)



●学びの現場から



若い生徒さんに私たちの芸と文化を知ってほしい
和香さん

柳都振興株式会社
芸妓

柳都振興は1987年、地元の有力企業約80社が出資して誕生した、全国初の株式会社組織による芸妓養成・派遣会社です。中学、高校と吹奏楽部だった私は、正社員という安定した立場で唄や三味線、踊りなどのお稽古をさせてもらえることに魅力を感じて入社しました。芸妓の仕事のほか、年に数回、芸事を公の場で発表する機会があります。その一つが市民の皆さまに芸妓総出で芸を披露する「ふるまち新潟をどり」のイベント。大きな拍手をもらえると、伝統芸能の担い手であることを誇りに感じます。このプログラムで皆さんにも、私たちの芸と文化を知ってほしいと思っています。

実施期間	通年 *お問い合わせください。
定員	最小：7人 最大：15人

プログラム内容例

花街文化とはなにか 1日

時間	タイトル	内容	担当
9:30	集合・オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 本プログラムの目的の確認 本プログラムの進め方の確認 	柳都振興株式会社
9:45	芸妓体験・古町芸妓について	<ul style="list-style-type: none"> 古町芸妓や柳都振興のおこり 浴衣の着付体験 日本舞踊レクチャー <p>新潟市に残る芸妓文化の代表である踊りやお座敷遊びを芸妓さんによるレクチャーも交え、体験します。</p>	柳都振興株式会社
11:45	昼食		自由
13:30	古町・新潟の歴史について	<ul style="list-style-type: none"> 古町(新潟市中央区)の街歩きもしくは 新潟の花街文化について学芸員よりレクチャー <p>新潟市における花街の歴史や文化について理解を深め、現在に息づく花街文化のあり様や課題について当事者からの声をききます。</p>	新潟シティガイド 旧斎藤家別邸
15:00	学びのシェア・アイデア発想方法のレクチャー	<ul style="list-style-type: none"> 学びの整理 	ファシリテーター
	アイデア発想ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> アイデア発想の考え方のレクチャー 各グループで花街文化を後世に伝えるためのアイデア創出 課題設定、課題を解決する具体的なアイデアを検討 	
16:30	発表・フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 1チーム5分で発表、10分質疑応答・フィードバック 	各グループ
17:00	解散		

花街文化とはなにか 半日

時間	タイトル	内容	担当
9:30	集合・オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 本プログラムの目的の確認 本プログラムの進め方の確認 	柳都振興株式会社
9:45	芸妓体験・古町芸妓について	<ul style="list-style-type: none"> 古町芸妓や柳都振興のおこり 浴衣の着付体験 日本舞踊レクチャー 	柳都振興株式会社
12:00	解散		柳都振興株式会社

| おことわり |

プログラム内容例に記載された訪問先、体験場所、所要時間等については、教育旅行の実施時期、訪問先様の諸事情、交通事情等により変更が生じる場合がございます。あらかじめ承いただけますようお願い申し上げます。

相談窓口
柳都振興株式会社
TEL: 025-222-7080
メールアドレス: info@ryuto-shinko.co.jp



花街文化とはなにか
～文化を残し守るために～





#エンタメ #ダンス #イベント #舞踊 #地方創生

新潟市と踊りの関係性

～民俗芸能の継承～

受け入れ可能人数 最小 15人 最大 40人

※時期によって変動します。詳しくはお問い合わせください。

地域の過去と現在を 未来につなぐ「にいがた総おどり」と 地方創生ストーリーを体感する

新潟市で2002年から毎年9月中旬に開催されている「にいがた総おどり」は県内外から約300団体が参加し、総勢14,000人が踊るオールジャンルのダンスフェスティバル。観客動員数も3日間でのべ40万人を超え、今や新潟市の貴重な観光資源となっています。本プログラムでは、300年前の新潟に実在した「踊りの祭典」を現代に蘇らせた若者たちの活動や、その背景にある新潟の伝統的な舞踊の文化を通して、地方創生につながる地域資源の発掘の方法や考え方を学びます。



橋げたに下駄を打ち鳴らし四日四晩踊ったと伝わる300年前の踊りを再現・復活させた「新潟下駄総踊り」。



「踊り」が盛んな新潟市には、伝統的な踊りから現代舞踊まで、様々なスタイルの「踊り」が根付いている。また、ワークショップなどで「踊り」に触れてもらい、文化の裾野を広げる活動も頻繁に行われている。



1/ 事前学習

新潟市の踊りの文化や「にいがた総おどり」について調べる

「にいがた総おどり」について調べる、動画で「にいがた総おどり」を視聴し、どんな祭りなのかを知る、新潟市の踊りの文化について調べるなど、事前に準備することで、新潟市の郷土芸能や伝統的な踊りのレクチャー、新潟発の現代舞踊のワークショップに主体的に取り組むことができます。



2/ 体験プログラム

新潟市の伝統の踊りと新たな踊り＝表現を体験する

「にいがた総おどり」が企画された背景やイベントに込められた想いを知り、古町芸妓による日本舞踊や農村に伝わる神楽舞を学び、さらには日本初の公共劇場専属舞踊団として、新潟市から世界に向けて新しい「表現」を発信しているNoismのワークショップで創作ダンスを発表します。



3/ 事後学習

地域資源を有効活用する方法を考える

なぜ新潟市で様々なジャンルの舞踏が地域に根付いているのでしょうか。本プログラムから得た情報や体験をもとに、地方創生につながる地域資源の発掘の方法や考え方をまとめてみましょう。また、自分たちの地域にそのような資源が眠っていないか調べて、有効活用するための方法を考えてみましょう。

プログラムの詳細とワークシートは、こちらよりダウンロードできます。

<https://www.city.niigata.lg.jp/kanko/kanko/newnormaltourism/index.html>



事前学習、事後学習は必要に応じて実施してください。

●プログラムを通しての到達目標 (SDGs)



●個別の体験に紐づく到達目標 (SDGs)



●学びの現場から



「踊り」には世代を超えて人と人をつなぐ力がある
岩上 寛さん

株式会社サイト
取締役副社長

2001年、私は19歳でイベントプロデューサーを目指す学生でした。町おこしの活動をしていた能登剛史さん(後に(株)サイトを設立)に声を掛けられて立ち上げた新潟総踊り祭実行委員会。経験も資金もないけれど情熱と行動力はある10～30代の若者が、自分たちで振り付けた踊りを祭りやイベントで踊ってPRしたり、全国の踊りの祭典を回って参加団体をスカウトしたり。あれから20年以上たち、今や市民が世代を超えて楽しむ大規模な祭りに発展した「にいがた総おどり」。第1回からのテーマ「次の世代に受け継ぐ心」を、皆さんにも感じていただければうれしいです。

実施期間	通年 *お問い合わせください。
定員	最小：15人 最大：40人

プログラム内容例

新潟市と踊りの関係性 1日

時間	タイトル	内容	担当
9:30	集合・オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 本プログラムの目的の確認 本プログラムの進め方の確認 新潟の踊りと祭の歴史やにいがた総おどりの波及効果について主催者の声をきく 	株式会社サイト
10:00	にいがた総踊りについてのレクチャー	<ul style="list-style-type: none"> デモンストレーション 下駄総踊りもしくは樽きめた <p>新潟市のダンスイベントである「にいがた総おどり」に込められた想いや「踊り」に着目した背景について理解を深め、新潟市にどのような波及効果があったのかを知った上でレクチャーを受けます。</p>	株式会社サイト
12:00	昼食		自由
13:30	新潟市郷土芸能レクチャー	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的背景 新潟市と踊りの関係性 佐渡おけさ <p>新潟市の郷土芸能について歴史や特徴を学び、レクチャーを受けて実際に体験をします。</p>	新潟市民謡連盟
15:00	学びの共有・振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 体験を通して、学んだ踊りを練習・発表 もしくは 新潟総踊りの価値について議論 	株式会社サイト
17:00	解散		株式会社サイト

新潟市と踊りの関係性 半日

時間	タイトル	内容	担当
9:30	集合・オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 本プログラムの目的の確認 本プログラムの進め方の確認 新潟の踊りと祭の歴史やにいがた総おどりの波及効果について主催者の声をきく 	株式会社サイト
10:00	にいがた総踊りについてのレクチャー	<ul style="list-style-type: none"> デモンストレーション 下駄総踊りもしくは樽きめた 	株式会社サイト
11:30	発表フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> 体験を通して、学んだ踊りを発表 	株式会社サイト
12:00	解散		

【おことわり】

プログラム内容例に記載された訪問先、体験場所、所要時間等については、教育旅行の実施時期、訪問先様の諸事情、交通事情等により変更が生じる場合がございます。あらかじめ承いただけますようお願い申し上げます。

相談窓口
株式会社サイト
 TEL: 025-383-6630 FAX: 025-255-1333
 メールアドレス: office@soh-odori.net



新潟市と踊りの関係性
～民俗芸能の継承～





#環境保全 #生物多様性 #良質な水 #脱炭素

水と共に暮らす ～恵みと災害のはざままで～

受け入れ可能人数 最小 15人 最大 40人
※時期によって変動します。詳しくはお問い合わせください。

新潟市の「潟」と「浜」で 水と共生する人々の生活と 取り組みを体験し 環境保全・再生への理解を深める

新潟市は、阿賀野川と信濃川という二つの大河と、それに伴う「潟」と呼ばれる湿地帯、そして豊富な海洋資源をもつ日本海に囲まれています。「水の都」とも称されるほど水との縁が深く、人々は昔から「潟」や「浜」から豊かな食の恵みを享受してきました。本プログラムでは新潟市の潟と浜の周辺に住む人々の水を利用した生活や市民の環境改善の取り組みなどを体験し、潟と浜の環境を未来につなげるために、写真を用いたストーリーブックの制作を通して、持続的な環境保全・再生への理解を深めます。

(2022年、新潟市は全国初のラムサール国際湿地都市に認証)



新潟市には砂州によって外海から分離されてできる海岸の湖、「潟」が複数ある。その多くで急速な都市化による水質汚染が進んでいたが、近年、自然と人が共生する潟を目指す取り組みが行われている。



NPO法人新潟水辺の会提供

●学びの現場から



豊かな水辺を次世代と共につくる
相楽 治さん

NPO法人新潟水辺の会代表世話人
三潟守トラストサブリーダー

新潟水辺の会は1987年に発足し、2002年にNPO法人化しました。身近な里川や里潟の持続可能な再生・発展へ向けて、資源としての水辺のEcoUpとEcoUse、EcoPrideを推進しています。潟のEcoUpでは、会員が漁協や市民と協働で空芯菜の湖上イカダ栽培中(学校給食などに提供)。潟のEcoUseでは、竹林再生のイカダ作りやカヌー、漕歩きなどの体験プログラムを市民や学校等に提供中。子供たちの体験発表などEcoPrideの成果を引き出しています。この体験旅行では、私たちは事前、事後の情報提供を行います。私たちは、体験指導を三潟守トラストや地元漁協、市民団体と連携・協働して取り組みます。

●プログラムを通しての到達目標 (SDGs)



●個別の体験に紐づく到達目標 (SDGs)



実施期間	通年 *お問い合わせください。
定員	最小：15人 最大：40人

プログラム内容例

水と共に暮らす(鳥屋野潟) 1日

時間	タイトル	内容	担当
9:30	集合・オリエンテーション	●本プログラムの目的の確認 ●本プログラムの進め方の確認	水辺の会・三潟守トラスト
9:40	潟体験 	●カヌー、木舟、投網体験 ●空芯菜の収穫・調理 ●冬季は野鳥観察 ※季節や天候によって調整	水辺の会・三潟守トラスト
潟でのアクティビティを通じて、現代における潟の活用方法やそれらの企画に至った想いについて理解を深めます。			
12:00	昼食		自由
14:00	潟体験(午前中の続き) 	●カヌー、木舟、投網体験 ●空芯菜の収穫・調理 ●冬季は野鳥観察 ※季節や天候によって調整	水辺の会・三潟守トラスト
16:00	発表・フィードバック	●これまでの学びの整理 ●気づいたこと、里潟へ提言 ●振り返り	水辺の会・三潟守トラスト
17:00	解散		

水と共に暮らす(鳥屋野潟) 半日

時間	タイトル	内容	担当
9:30	集合・オリエンテーション	●本プログラムの目的の確認 ●本プログラムの進め方の確認	水辺の会・三潟守トラスト
9:40	潟体験 	●カヌー、木舟、投網体験 ●空芯菜の収穫・調理 ※季節や天候によって調整します	水辺の会・三潟守トラスト
11:30	ワークショップ	●気づいたこと、里潟へ提言 ●振り返り	水辺の会・三潟守トラスト
12:00	解散		

水と共に暮らす(新潟と海) 半日

時間	タイトル	内容	担当
9:20	集合・オリエンテーション	●本プログラムの目的の確認 ●本プログラムの進め方の確認	新潟海洋開発
9:30	水理実験場等	●国土交通省 新潟港湾空港整備事務所 新潟港湾空港技術調査事務所 水理実験場 等	国土交通省 新潟港湾空港整備事務所 新潟港湾空港技術調査事務所
10:30	海ゴミアップサイクル 	●海洋ゴミの一種、シーグラスを使った体験 ※水理実験場に立ち寄らない場合は、海ゴミアップサイクルに加え、海洋ゴミの課題についてのレクチャーを実施	新潟海洋開発
海に流れ着いたものを手に取ることで、普段の生活がどのように影響を与えるかを考えます。また、価値のないもの(=ゴミ)に、手を加えることで価値を与えるというアップサイクルの考え方を体験します。			
12:00	解散		

| おことわり |

プログラム内容例に記載された訪問先、体験場所、所要時間等については、教育旅行の実施時期、訪問先様の諸事情、交通事情等により変更が生じる場合がございます。あらかじめ承いただけますようお願い申し上げます。



●鳥屋野潟

NPO法人新潟水辺の会・三潟守トラスト(長谷川)
TEL: 090-1932-2153
メールアドレス: info@ml.niigata-mizubenokai.org

●新潟と海

NPO法人新潟海洋開発
メールアドレス: info@n-kk.or.jp



水と共に暮らす
～恵みと災害のはざままで～





#鉄道 #バス #船 #交通網 #脱炭素 #まちづくり

田園型都市の交通

～持続可能な交通を目指して～

受け入れ可能人数 最小 15人 最大 40人

※時期によって変動します。詳しくはお問い合わせください。

新潟市の交通の現状を検証し サービス提供者や利用者への インタビューから課題の解決策を創出

古くは北前船や川舟が集まる「湊町」として栄え、明治以降は新潟港の近代化と共に発展した新潟市。現在も上越新幹線や在来線のターミナルである新潟駅と国内外の都市に就航している新潟空港を有し、交通の要衝としての存在感は増えています。一方で、路線バスの維持が難しくなっていたり、道路交通量の多さから脱炭素化が困難だったり、様々な課題を抱えています。本プログラムでは、新潟市の交通の現状を検証し、未来に向けて持続可能な交通とはなにかを探求します。



上空から見た新潟市の中心部。信濃川の河口に突き出す万代島には、佐渡汽船のフェリーターミナルがある。



新潟市では、「都心アクセスの強化」「都心部での移動円滑化」「生活交通の確保維持・強化」に、新たに「広域交通との連携強化」「市民や関係者による協働」を加えた5つの視点に基づく公共交通を推進している。



1/ 事前学習

新潟市の交通について調べ課題を推測する

新潟市の陸海空の交通について、グループで分担して調べておきましょう。発展の歴史や現状を、路線の増減や利用者数の増減など様々な側面から推測してみてください。また、実際に現地に訪問した時にインタビューしてみたい人やその人に聞きたいことをあらかじめ想定しておくスムーズです。



2/ 体験プログラム

新潟市の交通の課題を調べ解決策を創出する

陸海空の交通資源が豊かで、交通と共に発展してきた新潟市。どのような地形や立地条件で交通が整備されてきたのかを知り、現在の人々の生活にどのように貢献しているのかをサービス提供者や利用者の声を聞き取って明確にし、そこから課題とあるべき姿を洗い出すことで解決策を創出し、発表します。



3/ 事後学習

持続可能な理想の交通網のアイデアを出し合う

新潟市の交通の課題解決についてプレゼンテーションした経験を踏まえ、自分たちの地域の持続可能な理想の交通網について考えてみてください。路面電車の復活、無人電気自動車の活用、自転車専用道路の整備など、SDGsの観点でいろいろなアイデアが出てくると盛り上がるでしょう。

プログラムの詳細とワークシートは、こちらよりダウンロードできます。

<https://www.city.niigata.lg.jp/kanko/kanko/newnormaltourism/index.html>



事前学習、事後学習は必要に応じて実施してください。

●プログラムを通しての到達目標 (SDGs)



●個別の体験に紐づく到達目標 (SDGs)



●学びの現場から



便利さと不便さを
分け合うのが公共サービス
大津 朋実さん

新潟交通株式会社
経営管理室

弊社は運輸業をメインに不動産事業、商品販売事業、旅館事業など多岐にわたる事業を展開しています。なかでも乗合バスは新潟市の公共交通の要です。市民を取り残すことのないサービスが基本です。脱炭素やMaaS*の導入といった社会的な取り組みが求められるのも公共交通ゆえのこと。私はそこに、難しさと同時にやりがいを感じます。公共交通においては特定の誰かだけが便利になるのではなく、「便利さ」と「不便さ」を皆で分け合いながらサービスを維持していくことが重要です。そしてこの考え方は、SDGsにも通ずると思っています。

*複数の交通機関のサービスを一つのサービスとして結び付ける概念

実施期間	通年 *お問い合わせください。
定員	最小：15人 最大：40人

プログラム内容例

田園都市の交通 1日

時間	タイトル	内容	担当
9:00	集合・オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 本プログラムの目的の確認 本プログラムの進め方の確認 ミッションを設定する 例：新潟の10年後のMaaSの姿を考えよう！ 	新潟交通
10:00	市内フィールドワーク	<ul style="list-style-type: none"> 路線バス、観光循環バスに乗ってまちの散策(昼食時間含む) <p>新潟市の交通上現状を実際に体験</p>	市内
14:05	バスについてのレクチャー	<ul style="list-style-type: none"> 新潟のバス交通の課題等をレクチャー <p>新潟市におけるバス交通の歴史や市民の足としての役割、さらには現在における課題を当事者の声を頼りに理解します。</p>	新潟交通
15:00	アイデア発想ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学びの整理 アイデア発想の考え方レクチャー 	ファシリテーター

田園都市の交通 半日

時間	タイトル	内容	担当
9:30	集合・オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 本プログラムの目的の確認 本プログラムの進め方の確認 ミッションを設定する 例：新潟のバス交通の活性化策を考えよう！ 	新潟交通
9:35	バスについてのレクチャー	<ul style="list-style-type: none"> 新潟のバス交通の課題等をレクチャー 	新潟交通
10:30	アイデア発想ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学びの整理 アイデア発想の考え方のレクチャー 	ファシリテーター
12:00	解散		

【おことわり】

プログラム内容例に記載された訪問先、体験場所、所要時間等については、教育旅行の実施時期、訪問先様の諸事情、交通事情等により変更が生じる場合がございます。あらかじめ了承いただけますようお願い申し上げます。

相談
窓口

新潟市観光・国際交流部 観光推進課

TEL: 025-226-2612

メールアドレス: inbound@city.niigata.lg.jp



田園型都市の交通
～持続可能な交通を目指して～



#農村文化 #建築 #庭園 #農業 #田園都市
農村の食文化と日本の味
 ～食を支える加工技術～

受け入れ可能人数 最小 15人 最大 40人
 ※時期によって変動します。詳しくはお問い合わせください。

**新潟市の豪農屋敷を拠点に
 農村に伝わる食文化を体験し
 新潟市産の食材で弁当を開発する**

2013年12月、「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。季節感や地域色、行事食を取り入れた家庭の和食がその対象となったことが、当時は大きな話題となりました。しかし、近年の日本の家庭料理は洋食中心で米の消費量も減ってきています。本プログラムでは新潟市の豪農屋敷を拠点に、農村に伝わる食文化を保存や加工の技術とともに学び、新潟市の地産弁当の商品開発を体験しながら「日本の家庭が大切にしてきた食文化とはなんだったのか」を探求します。



日本一の米どころ新潟市の米飯を中心に、新潟市の食材を使って自分だけのお弁当を作ろう。



日本海の豊かな漁場に近く、都市部と農村部が共生する新潟市には、新鮮でおいしい食材を生産する農漁業者や、それらを原材料とする加工食品業者が多い。また、雪深い冬をしのぐための発酵食品文化も発達した。



株式会社新生バイオ提供

1/ 事前学習

新潟市の農産物や水産物について調べる

新潟市の農産物、水産物について、どんなものがとれるのか、それらを活用した郷土料理や加工食品にはどんなものがあるかを事前に調べておくことで、実際にプログラムで目にする食材や生産者に親近感がわきます。また、本プログラムではお弁当作りをするため、料理の基礎を家庭で復習しておくといいたいでしょう。



2/ 体験プログラム

新潟市の食文化と地産弁当の商品開発を体験する

新潟市の豪農屋敷や潟をフィールドとして食文化を体験。豊富な食資源をもたらす自然環境、それを活用してきた人々の営みや地域の歴史・文化を知った上で、新潟市の農産物や水産物、それらの加工品をできる限り使って、生産者の一助にもなる新潟市らしいお弁当を開発します。



3/ 事後学習

持続可能な食文化のために必要なこと、できることを考える

本プログラムでの体験をもとに、自分の地域で生産されている食材や特産品を使ってお弁当やお菓子などを作ってみてください。また、供給過剰によるフードロスや、第一次産業従事者の高齢化による廃業など、食に関する課題はたくさんあります。持続可能な食文化のためになにが必要か考えてみましょう。

プログラムの詳細とワークシートは、こちらよりダウンロードできます。

<https://www.city.niigata.lg.jp/kanko/kanko/newnormaltourism/index.html>



事前学習、事後学習は必要に応じて実施してください。

●プログラムを通しての到達目標 (SDGs)



●個別の体験に紐づく到達目標 (SDGs)



●学びの現場から



豪農・伊藤家が果たした機能や文化を伝える
伊里 浩さん

北方文化博物館
 学芸員

当館は伊藤家7代当主が「250年の歴史をもち、越後随一の豪農である当家の遺構を後世に残したい」とGHQに働きかけて誕生した、戦後の私立博物館第1号です。それを引き継いだ8代当主は庭や蔵を含む豪農屋敷全体を、見るだけでなく当時の文化を体験できる博物館にしました。皆さんにはここで、かつて使用人60名を含む一家の飯をまかなった大釜やかまど、300戸の集落に振る舞う餅をついた臼などを見て、実際に釜でご飯を炊いてもらいます。そして、村人の寄り合いが行われていた大型の囲炉裏で、今に受け継がれる農村の食文化を味わってください。

実施期間	通年 *お問い合わせください。
定員	最小：15人 最大：40人

プログラム内容例

農村の食文化(お弁当作り) 半日

時間	タイトル	内容	担当
9:30	集合・オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 本プログラムの目的の確認 本プログラムの進め方の確認 	にいがた食と農の加工連携事業協同組合
9:35	新潟の郷土料理とその調理方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 郷土料理の紹介やその調理の仕方などをレクチャー <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 新潟枝豆、コシヒカリ、菊など新潟の食材や流通についての紹介に加え、調理を行う際の衛生管理を学ぶ </div>	にいがた食と農の加工連携事業協同組合
10:00	事前準備(チームビルディング)	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク(弁当の中身と配置の設計図づくり、役割分担) 	にいがた食と農の加工連携事業協同組合
10:30	弁当作り	<ul style="list-style-type: none"> 試食もしくは持ち帰り 	にいがた食と農の加工連携事業協同組合
12:00	解散		

農村の食文化(北方文化博物館) 半日

時間	タイトル	内容	担当
9:30	集合・オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 本プログラムの目的の確認 本プログラムの進め方の確認 	北方文化博物館
9:35	北方文化博物館視察	<ul style="list-style-type: none"> 学芸員による案内 	北方文化博物館
10:40	炊飯体験	羽釜炊飯 ※昼食またはご飯の試食 ※炊飯中、時間があれば自由見学	北方文化博物館
12:00	解散	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 新潟市に残された農業文化のうち、現代に息づく料理技法などを科学的に理解し、実践します。 </div>	

【おことわり】

プログラム内容例に記載された訪問先、体験場所、所要時間等については、教育旅行の実施時期、訪問先様の諸事情、交通事情等により変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承ください。お問い合わせは、お申し込みのうえで行います。

相談窓口
 新潟市観光・国際交流部 観光推進課
 TEL: 025-226-2612
 メールアドレス: inbound@city.niigata.lg.jp



新潟市近隣市の体験プログラム

新潟市から近隣 3市へ足を延ばして！
おすすめの体験プログラムと施設を紹介します。

三条市

マルト長谷川工作所

アクセス：新潟駅より北陸自動車道
経由、約 48 分

見学・体験

「ものづくりのまち」で 工場見学と製作体験

高品質な工具やネイルケアの道具が世界的に愛用されている製作所。その現場を見学し、そこで作られた製品を使って、ものづくりを体験します。

プログラム内容

- 工場見学：1班35人程度（無料）、所要時間 約60分（調整可能）/ 団体の場合、ガイド付
- 買い物：併設されるショップで買い物
- 体験：ビーズアクセサリ製作体験 1班 15人まで、所要時間 約60分。自社製工具を使い、イヤリングやプレスレットなどを製作します。
- SDGs セミナー：SDGs の基礎講習と事例紹介、自分たちができることを考えるワークショップ実施。35人まで、所要時間 約60分。



総合
窓口

三条観光協会

URL：<https://www.city.sanjo.niigata.jp/sanjonavi/>
TEL：0256-34-5603

燕市

燕市産業史料館

アクセス：新潟駅より北陸自動車道
経由、約 39 分

見学・体験

金属加工産業の 歴史と文化を知る

江戸時代から受け継がれる燕市の金属加工技術の歴史を紹介する博物館。併設の体験工房館では鋸目入れなども体験できます。

プログラム内容

- 史料館見学：40人程度（要相談）、所要時間 約60～70分（体験時間含む）
- 体験：①チタン製スプーン酸化発色体験（アイスクリームスプーン、コーヒースプーン）、所要時間 約3～5分前後。チタン製のスプーンに電流を流してスプーン表面に「酸化被膜」を作って発色させます。②純銅タンブラー鋸目入れ体験、所要時間 約30分。純銅のタンブラーの表面を金鋸でたたき、鋸目を入れていきます。



総合
窓口

燕市観光協会

URL：<https://tsubame-kankou.jp/>
TEL：0256-64-7630

村上市

村上市スケートパーク

アクセス：新潟駅より日本海東北自動車道 / 日本海沿岸東北自動車道 経由、約 57 分

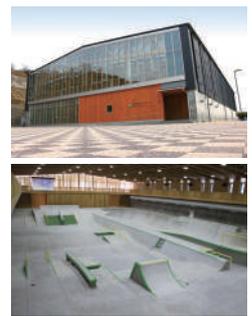
体験

林業のまちが誇る 全天候型屋内スケートパーク

地元の木材をふんだんに使った日本最大級の屋内スケートパークで、施設の見学やスケートボード、ボルダリング、スラックラインの体験が可能です。

プログラム内容

- 体験：スケートボード、ボルダリング、スラックラインの体験。小学生 36名まで、中学生 30名まで。上記人数を超える場合は要相談。講師の指導の下、班に分かれ各種目を25分程度体験いただけます。所要時間 2時間～2時間30分程度。
- 講師：有料
 - ・ボルダリング、スラックライン 講師 1名につき各種目 20名まで指導可能。
 - ・スケートボード 講師 1名につき 4名まで指導可能。
- プログラム問い合わせ先
URL：<https://www.city.murakami.lg.jp/soshiki/79/murakamishiskatepark.html>
TEL：0254-53-8802



総合
窓口

村上市観光協会
(その他の観光情報)

URL：<https://www.sake3.com/>
TEL：0254-53-2347

新潟市教育旅行プログラム窓口

新潟市観光・国際交流部
観光推進課

TEL：025-226-2612

メールアドレス：inbound@city.niigata.lg.jp

相談受付時間 8:30～17:30（土日祝、12月29日から1月3日除く）

「新潟市教育旅行～SDGsの目標達成に寄与する体験型プログラム」は、新潟市新しい観光スタイル推進協議会によってプログラム化されたものです。実際の教育旅行の販売と実施については旅行会社によって行われます。また、プログラムの体験料は参加人数や季節等により変動いたします。なお、パンフレットの掲載情報は令和5年3月31日のものです。掲載内容については変更になる場合もありますので、ご利用の際は事前にご確認ください。